

## I 調査概要

### 調査目的

診療報酬の改定によって、「平均在院日数の短縮」が課題となりつつあるが、その「平均在院日数の短縮」の上で重要となる「退院」は、どのように行われているのだろうか。退院への取り組みのひとつとして「退院計画」の実施を取り上げ、「1996年 変革期における看護管理の課題に関する調査」に追加して、以下の点を明らかにするために、当調査を実施した。

- ①退院計画の実施状況と計画の具体的な内容の把握
- ②退院に関するよりよい実践紹介のための資料収集

### 調査対象

「1996年 変革期における看護管理の課題に関する調査」の問5.(3)において、「退院計画の策定」を実施していると回答し、追加調査が可能であった494施設（16.6%）とした。

### 調査方法

対象病院の看護部長（またはそれに代わる職名の者）あてに調査票を郵送。調査票に記入ののち、本会調査研究課への返送を依頼した。

### 調査時期

1997年7月10日現在の状況の記入を求めた。

### 回収状況

回答は261施設（回答率52.8%）であった。このうち、当調査においても、何らかの形で「退院計画を策定している」と回答した231施設を有効回答（有効回答率46.8%）とした。

### 調査担当

本会調査・情報管理部調査研究課（近藤優子）が担当した。

### 調査回答病院の傾向

#### (1) 設置主体

回答病院を設置主体別に見ると、公立病院66施設（28.6%）、医療法人57施設（24.7%）、公的病院31施設（13.4%）、国立病院22施設（9.5%）、その他社会保険関係団体病院等が17施設（7.4%）であった。

表1 病床規模別回答病院数 (%)

病床数	回答病院数
20～99床	25 (10.8)
100～199床	58 (25.1)
200～299床	33 (14.3)
300～399床	39 (16.9)
400～499床	27 (11.7)
500～599床	17 (7.4)
600～699床	13 (5.6)
700～799床	6 (2.6)
800～899床	5 (2.2)
900床以上	8 (3.5)
計	231 (100.0)

(2) 病床規模

回答病院の病床規模は表1の通りである。「100～199床」が58施設(25.1%)と最も多かった。

(3) 病床種別

一般病床は回答した231施設すべてにあり、一般病床のみは156施設(67.5%)と約7割を占めた。併設された病床は、精神病床36施設(15.6%)、結核病床25施設(10.8%)、療養型病床群と老人

病床が各10施設(4.3%)となっている。

(4) 看護料の算定状況

「新看護」の算定を行っている病院が217施設(93.9%)とほぼ全数に近く、その内訳は「2対1」86施設(37.2%)、「2.5対1」70施設(30.3%)、「3対1」54施設(23.4%)、「3対1」以下が7施設(3.0%)である。